未定稿

令和２年度　東海岸サンライズベルト構想検討委員会（第２回）
－議事概要－

日　時：令和３(2021)年３月14日（日）　9：30～11：30
場　所：エリスリーナ西原ヒルズガーデン　アラマンダ
出席者：池田孝之委員長、島袋伊津子副委員長、山城博美委員、永井義人委員、前原正人委員、桑江朝千夫委員、上間秀二委員代理（島袋俊夫委員の代理）、瑞慶覧長敏委員、比嘉孝則委員、浜田京介委員、崎原盛秀委員、照屋勉委員、宮城力委員、松永享委員代理（嘉数登委員の代理）、立津さとみ委員代理（渡久地一浩委員の代理）、島袋善明委員代理（上原国定委員の代理）

１　開会の挨拶
池田委員長の挨拶

２　東海岸サンライズベルト構想策定に向けた事務局説明
事務局より東海岸サンライズベルト構想（素案）について説明を行った。

４　各委員の意見等について
①市町村長
（沖縄市）桑江委員
東海岸サンライズベルト構想（素案）だが、東海岸のポテンシャルを十分に活かした施策を展開し、これからの沖縄県の均衡ある発展に資するものと思う。また、東海岸の関係６市町村の強みを的確に捉え、戦略的な新たな振興計画となっている。
本構想の目指す姿についての意見としては、「構想の位置づけ」で「関係する市町村の関連計画等へも、その内容を反映させていく必要がある。」とあるが、市町村では時代の潮流を見据え、市民の意見を踏まえて立案した総合計画等がある。これらの市町村の意見についても構想に反映していくものとして、表現を工夫頂きたい。
「捉えるべき社会動向」について、気候変動の対応にSDGsが位置付けられている。世界規模で取り組まれており、日本においても2050年にカーボンニュートラルを宣言している。また、参考までに、ゼロカーボンシティを行っている市町村も増加する等、脱炭素の動きがある。この動向を捉えて、カーボンニュートラルの宣言に資する取組を明確に位置付けるべきだと思う。
「先導地域の促進」については、県において大胆な予算措置や組織的な体制の構築等、主動的に取り組んでいただきたい。具体的な実施計画は、市町村とも協議しながら進めてもらいたい。先導地域を目指すのであれば、専門性の高い組織との連携が重要である。県内であれば、高い専門性を有するＯＩＳＴと連携し、県が主体となって取り組んでもらいたい。
沖縄市においては令和３年から供用開始となる沖縄アリーナや沖縄こどもの国、ビーチフロント観光及びスポーツコンベンション拠点となる東部海浜開発に取り組んでいるところであり、それらの拠点は、本市はもとより、中城湾港を臨む市町村の発展に寄与するものと確信しているので引き続き支援して頂きたい。

金武町長、宜野座村長から出された要請書、北部地域にも参加頂きたいという意見については、沖縄市も賛成である。

（うるま市）上間氏（島袋委員代理）

東海岸サンライズベルト構想（素案）については、第１回検討委員会等で、世界遺産を有する新たな観光周遊ネットワーク、ワーケーション等の集積拠点化、中城港湾の港湾物流拠点の強化等について意見させて頂いたが、それらを網羅する形で整理がされていると感じている。一方で、沖縄県中城湾地域振興に係る地域幹線道路の実現に向け、中城地域振興協議会より県に対し要請が行われたが、中城湾港、東海岸地域の発展のためには基幹道路の整備は必要不可欠である。

うるま市は沖縄自動車道と東西に連絡する中部東道路（仮称）を交通基本計画に位置付けて推進している。そのため、「円滑な交通ネットワークの形成」において、「沖縄自動車道連絡道路の整備による、那覇空港及び那覇港との連携強化」という文言を明記して頂ければと考えている。産業基盤の強化という意味で、是非、ご検討頂ければと思う。

北部圏域の参加については、特に金武町、宜野座村、うるま市は環金武湾を通して、協議会を持っているため、是非参加頂きたい。

（南城市）瑞慶覧委員

東海岸サンライズベルト構想は、沖縄本島の東西格差の是正にはじめて光を当て、構想策定の目的に「県土の均衡ある発展を目指す」として、沖縄県が関係市町村との対話を重ねるといった大変意義深い取組であると思う。

特に、新たな振興計画、骨子案の策定や約 30 年振りに改定される中城湾長期構想、その他多岐にわたる計画との調整については、富川副知事の強いリーダーシップと、県職員の皆様をはじめ、関係者の皆様の惜しみない努力と苦労の上に今日の日を迎えた。県の所属長の皆様、県民の為に日夜奮闘した職員に対し、是非労いの言葉をかけて頂きたいと思う。私からは南城市を代表して感謝を申し上げる。

東海岸サンライズベルト構想は着実に実行していくことにより、その目標を達成するものである。

東海岸地域のポテンシャルを十分に発揮するためには、地域毎の課題も併せて取り組むことが必要不可欠であり、県と市町村の連携強化を図ることで計画の実効性を高め、早期の目標達成を実現することが大変重要である。

東海岸サンライズベルト構想に関連する実施計画の策定においては、県と関係市町村との十分な意見交換や対話の場を設けることについて、前向きなご検討を行ってもらいたい。

（北中城村）比嘉委員

東海岸サンライズベルト構想は、東海岸の活性化の呼び水となる事業が展開されるものであり、賛同するものである。

北中城村としては、南の MICE、北の国際物流拠点産業集積地の間にあり、村土の東海岸側が過疎化の傾向にあり、そこに企業誘致ができればと考えており、そのようなことが網羅されている。土地利用、企業誘致等の内容が記載されておりますので、非常に期待しているものである。

北中城村においては、元々農業が盛んな地域であったが、人口の過疎化、あるいは耕作放棄地等が東海岸に集中したのが大きく、本構想によって北中城村の更なる発展を期待したい。

（中城村）浜田委員

このような機会を持って頂き、感謝申し上げる。県が真剣に県の均衡ある発展を願う気持ちが伝わってくる。素案を拝見したが、非常に細部にわたって検討されていると思う。

各市町村、それぞれの思いもあると思うので、それをバランスよく考えて頂けるものと期待もしている。また、東海岸地域においては、那覇広域都市計画と中部広域都市計画が混ざっている状態にあるため、新たな制度作りや土地利用の見直しが必要と考える。

中城村と北中城村について、世界遺産がある。中城村としては、沖縄県の尽力もあり、中城高原ホテルの解体が進められている。中城高原ホテル跡地については、歴史・文化遺産的な観光拠点づくりを行うことで、一つの核ができるのではないか。

東海岸地域においては、沖縄県と市町村が共に頑張っていくためにも、気持ちに温度差が無いように、県にもしっかりと取り組んでいただければ、良い方向性が出来上がってくる。

ウィズコロナにより、地方の受け皿づくりが必要となるが、住環境づくりという面においては、西海岸よりも東海岸の方が受け皿づくりに対応できるポテンシャルがあると思う。

全体的には一緒に取り組んでいきたいという思いである。

（西原町）崎原委員

東海岸サンライズベルト構想の素案について、確認をして、内容については構想の意義、位置づけ、その他の項目についても各市町村のご意見を反映されており、素晴らしいとりまとめになっていると感じた。

特に、「リアルでの MICE 開催地として選ばれるためには」「オンラインでは代替しえない経験の提供」が重要であるという記載がある。また、MICE 施設については、ポストコロナ時代を見据えた施設のあり方が重要と記載されている。記載内容については、これからの対応として非常に重要であるとみている。また、ワーケーション、あるいはリモートワークを推進するにあたり、良い提言であると考えている。

「円滑な交通ネットワークの形成」にて、「国道 329 号バイパスを東海岸の物流道路としての役割を担う、東海岸地域一帯に連なる新たな基軸としての整備に向けた取組を推進していく」と記載している。これは３月 11 日（木）に中城湾に面する市町村の中城湾地域振興協議会として、県知事に要請をさせていただいた、中城湾地域振興に係る新規幹線道路の整備に沿うものと考えている。記載頂いたことに感謝を申し上げる。

沖縄キリスト教学院大学にて、通訳の講師を招いて、翻訳や通訳の集中講座を実施されていた。同時通訳の人材育成が行われている。MICE による世界との交流がうたわれており、当該取組についても、東海岸の発展に寄与するものと考える。

東海岸地域の活性化に繋がる大きな、意義ある提言・素案であると考えており、これまで多くの関係者の皆さんがご尽力を頂いたことに対し熱く御礼を申し上げたい。

（与那原町）照屋委員

東海岸サンライズベルト構想（案）をとりまとめて頂き、県庁の皆様、関係部署、職員の皆様には心から感謝を申し上げる。過去の沖縄振興計画策定の過程をみても、これほど広域的に市町村が参加し、議論をして、とりまとめた構想はないと思っている。従って、その重みをひしひしと感じているところである。

東海岸サンライズベルト構想実現のためにも、中城湾地域振興協議会、県庁内の関連部署と市町村とを繋ぐ役割をしっかりと担い、全ての知見をこの地域に集中させるよう取組んでいきたい。

今回の構想を実現するために、２つのキーワードがあると考える。

１つ目のキーワードは市町村毎の個別の最適と、サンライズベルト地域全体の最適を組み合わせることが重要と考えている。例えば、個別の最適を構想の中から読み取ると、斎場御嶽や中城城跡、勝連城跡であり、全体の最適を捉えると、連携したスピリチュアルツアーの形成が挙げられる。まちづくりや土地利用を捉えると全体の最適であれば、新たな公共交通の構築が挙げられる。このように、構想実現のための展開を進める際に、常に市町村毎の個別の最適、市町村の総合計画と東海岸サンライズベルト地域全体の最適を意識して、取り組む必要がある。

２つ目のキーワードは関係人口と活動人口を増やすことである。住んで良し、遊んで良し、働いて良しの東海岸地域を作ることが重要。イノベーターや発明家たちと共に、新たな技術の開発、実証することで新しい価値を生み出し、そのプロセスの中で関係人口と活動人口を増やし、東海岸地域の活性化、発展に繋がるものと考える。その役割を与那原町も率先して取り組んでいく所存である。

②県関係部局長

（企画部）宮城委員

現行計画である「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」の総点検の結果や新沖縄発展戦略を踏まえると共に、SDGs を反映させ、ウィズコロナからアフターコロナに向けた将来を見通す中で、未来を先取りし、日本経済の一端を担うべく、新時代の沖縄を展望しうる観点から、「新たな振興計画（骨子案）」を令和３年１月に公開した。「新たな振興計画（骨子案）」において、東海岸サンライズベルト構想は、県土のグランドデザインと圏域別展開の中で重要項目としている。本委員会を踏まえた本構想の展開についても、新たな振興計画の素案に反映したいと考えている。

構想の素案については、「基本的な考え方」にある「県土の均衡ある持続可能な発展」や、「目指す姿」にある「新時代の対応」や「先導地域」が重要なキーワードであると考える。

沖縄県企画部の施策展開として、地域住民の日常生活の足である公共交通においては、安定的な運行計画が重要であると考えている。公共交通の持続的な感染防止対策の定着を支援するための支援金を支給した。また事業者の資金繰りの円滑化を図るための各種支援を行っている。引き続き、各種公共交通の持続的な運営や利便性向上に取組むことが重要と考えている。

鉄軌道の取組みと併せて、鉄軌道と各地域を結ぶ利便性の高い公共交通ネットワークの構築を見据え、沖縄本島の圏域毎に議論の場を設け、市町村と協働で公共交通の充実に向けて取り組むこととしている。東海岸地域一帯に MICE を展開するための円滑な公共交通システムの構築についても、検討を進めることが重要であると考えており、引き続き検討する。また、近年では５

G といった新たな通信技術の発展や自動運転技術の実証実験の展開、MaaS に見られるように人の移動にも変革が起き始めていることから、これらを活用した交通サービスの充実にも取り組みを進めることが重要であり、新たな振興計画に向けて検討を進めていきたいと考えている。

（商工労働部）松永氏（嘉数委員代理）

「IT イノベーション拠点の形成」と「臨空・臨港型産業の拠点形成」について報告したい。

まず「IT イノベーション拠点の形成」については、IT 津梁パークを核として、アジアと日本を結ぶ IT 産業の拠点として、情報通信関連産業の集積が進んでいる。本構想においては、情報通信関連産業と観光業等の他産業との連携による沖縄モデルのデジタル化のイノベーション等を促進するリゾテック沖縄を推進し、AI や Iot、ビックデータを活用、新技術の社会実験の場を提供することが重要であるとしている。また、リゾテック沖縄の展開については、新型コロナウイルス感染症による新たな日常の原動力になるとともに、豊かで暮らしやすい魅力的なまちの実現、そして災害時のリスクに強い強靭なまちづくりに繋がることが期待されている。

商工労働部においては、県内の情報通信関連産業の高度化、高付加価値化を図り、各産業や社会、経済全体に寄与する沖縄モデルの DX を促進している。県内情報通信関連産業の主動的な役割を担い、他産業の付加価値向上や社会課題の解決に繋げると共に、ＩＴ産業の集積や新技術の実証等による新たな価値の創造に取り組んでいきたい。

「臨空・臨港型産業の拠点形成」だが、県では中城湾港新港地区を中心に、関係市町村と連携しながら県内製造業の事業拡大に伴う、移転・再配置、高付加価値製造業の誘致等の取組を進めている。足腰の強い経済確立のためには臨空・臨港型産業の更なる集積が必要であり、関係市町村の産業振興、あるいは産業用地の確保に向けた意見交換を進めている。

商工労働部においては、今後の産業振興に向け、県内企業、地域、県民の稼ぐ力の強化を図ることを基本方向に、各種施策を展開するものとしており、東海岸サンライズベルト構想に掲げる全体方針を踏まえながら、東海岸地域のこれまでの集積拠点や産業基盤を活用すると共に、強みとなるポテンシャルを活かしながら生産性・付加価値を向上させ、県民所得の向上を目指していきたい。

（文化観光スポーツ部）立津氏（渡久地委員代理）

東海岸の強みや活かすべき特性の中で、県が関連する施策として、マリンタウン MICE エリア形成事業がある。県ではマリンタウン地区において、官民連携による新しい生活様式の視点を踏まえた MICE 施設の整備を含む、MICE エリアの形成を目指しており、新型コロナウイルス収束後の経済回復を牽引し、東海岸エリア一帯に発展の勢いを創出する事業として取り組んでいる。また、東海岸に西海岸と対を成す強固な経済基盤の構築に向けて、中核となる新たな MICE 施設を含むマリンタウン MICE エリアの形成に向けては、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、スピード感を持って取り組んでいくこととしている。また、地域の魅力を活かした観光については、琉球王国の歴史や文化を感じることができる世界遺産等の認知度向上や周遊促進等を目的とした情報発信を行っている。そのほか、津堅島などの個性豊かな蒸暑地域等の自然環境を活かした、富裕層向けのコンテンツやサービスについて PR し、誘客に繋げる。

また、スポーツ振興については、市町村と県においてプロサッカーチームのキャンプの誘致を

進めているほか、沖縄県総合運動公園等の総合スポーツ施設に加え、沖縄市が整備した沖縄アリーナ等を活用し、スポーツコンベンション地域の形成を図る。

引き続き、地域のソフトパワーを活かした、ワーケーションの促進や、スポーツツーリズムの促進、MICE 施設整備等の様々な施策を通じて、東海岸地域の発展に取り組んでいく。

（土木建築部）島袋氏（上原委員代理）

東海岸サンライズ構想において、土木建築部に関連する内容としては、「東海岸地域の魅力を活かした観光の展開」として、中城公園に関して記載している。また「サンライズポート」として中城湾港や「円滑な交通ネットワークの形成」にて道路整備について記載している。

各市町村より社会インフラの整備について、うるま市から中部東道路、西原町より 329 号バイパス、また沖縄自動車道との連携等、基盤となる道路整備についてはまだまだニーズがある。

サンライズベルト構想においても、今後も道路整備に取り組むことが記載されており、今後の具体の計画に落とし込んで、施策や事業として取り組んでいきたい。

国を中心に新たな広域ネットワークについて議論しており、県としも、国に対して新たな道路ネットワークについて提言を行っていきたい。

③学識経験者等

島袋副委員長

「構想実現のための展開」の並びだが「目指す姿」の「住む、働く、遊ぶ」に倣い、「良好な居住環境とともに、歴史・自然資源と産業・観光振興が調和する土地利用の展開」を最初にしてはどうか。

「東海岸地域の魅力を生かした観光の展開」が最初にあるのは、少し違和感がある。

西海岸をみても分かるように、観光業、観光客の誘客を優先させると住民にとっては住みにくい地域になりかねないのではないかという懸念がある。東海岸においては、どのようなまちづくりを行うのかといった時に、観光業と住環境、あるいは産業振興、企業誘致、これらが両立できると素晴らしいが、どちらを優先させるかとなった際は、西海岸のような課題を抱えないよう、すみ分けや役割分担が必要。

現在、居住している住民にとって、住みよいまちづくりだけを行うのではなく、ワーケーションという言葉もあるが、働くのは那覇市でもよいが、住む場所としては、東海岸地域に家を建てたい、あるいは県外から移住したい、他の市町村から移り住みたいと思えるような、住環境を優先させたまちづくりを行うことで、より西海岸との役割分担が図れるのではないか。

山城委員

中城湾港については、港の拡充・整備、開発に期待はするものの、それだけでは不十分で、那覇港を中心とした南の経済圏域との交通アクセスについて、前回の検討委員会においても意見を述べさせてもらった。構想案も読ませて頂き、中城湾長期構想との整合性も図られており、交通アクセスの重要性についても、記載されていることから、異存はない。

「沖縄県中城湾港地域振興に係る新規幹線道路の実現に向けて」の要請文を拝見したが、これを東海岸サンライズベルト構想に反映頂きたいと思う。

琉球海運は以前より、中城湾港のポテンシャルに期待しているが、それ以前の課題として那覇港の狭隘性がある。過密状況にあり、混雑していることから寄港しているのが実態である。

先月、中城新港が供用開始され、利便性が飛躍的に改善した。昨年完成した新港地区のモータープールとの相乗効果により、貨物量増大が今後大いに期待され、関係者の皆様には御礼を申し上げる。また、新造船（あやはし）を新港させており、博多から那覇を結ぶ航路があるが、こちらの船舶も中城湾港に早めに寄港させたいと考えている。

永井委員

IT の観点から、スマートシティやイノベーションといった文言が盛り込まれているが、そのような言葉だけでは、特別な取組や新規予算を組むということと勘違いされる方もいるのではないかと思う。自治体のデジタル化や公的機関の持っている情報をオープンデータ化する等、地道な活動についても記載頂きたい。

例えば、以前は Google マップで沖縄のバス運行情報について検索できなかったが、時刻表の情報がオープン化されたことで、県民のみならず、インバウンドを含むあらゆる観光客が、沖縄のバスで自由に移動できるようになり、利便性が格段に向上した。ドローンや自動運転などの目立つハイテク言葉を使わなくとも、現在あるデータを使えるデータとして世の中に公開するだけで各段に利便性が向上する。こういった地道な活動についても取りこぼすことなく、脚光を浴びるようにしてもらいたい。

停電しない、停電しにくい環境も重要である。例えば、沖縄へワーケーションにきた人が、台風により停電した場合、その人は仕事が出来なくなり、台風シーズンには沖縄でワーケーションするという選択を二度としないだろう。

地道な行政のデジタル化、オープンデータ化、停電対策、そしてマイナンバーの普及・活用こそがスマートシティ化を支えることを忘れないでほしい。

東海岸サンライズベルト構想の時間軸だが、これは 100 年後の話なのか５年、１０年後の話なのか見えてこない。本構想の時間軸について教えてほしい。

東海岸サンライズベルト構想が東海岸の自治体を対象としたローカルなプロジェクトのままでいるのか、それとも西海岸を含め、沖縄県全体を巻き込んでいくプロジェクなのか、更に九州や台湾も巻き込み琉球ベルトと呼ぶべき広域なプロジェクトにするのか、次のシナリオも考えた方が良いと思っている。

「構想実現のための展開」の取組について、災害に対する内容を記載するべきではないか気になっている。

災害といえば地域住民を守ることが意識されるが、沖縄の場合は来訪者についても意識する必要がある。例えば大型 MICE 施設の供用が始まれば、２万人程度の来訪者がこのエリアに存在することになる。あるいは県外で大規模災害が起きた際に、被災者の受入れを行うことも考えられるだろう。いま、広域の概念と災害の話をしたが、ベースにある考え方は、このサンライズ構想が一部のエリアの人たちのためでなく、沖縄全体、日本やアジアも含め、広く共感できるプロジェクトになってほしいという気持ちがある。

前原委員

「構想実現のための北部圏域における展開」だが、北部地域の観光はグランピングの推進や農

業と観光による６次産業、ICT の活用、具体的かつ最近の流行を抑えた内容となっている。

「東海岸地域の魅力を活かした観光展開」について、世界遺産や伝統芸能について書かれており、東海岸の大きな魅力だと思うが、他にも何かあるように思う。グリーンツーリズム、民泊は東海岸地域で既に取り組まれている内容であり、今一度、検討いただきたい。

通過型観光から滞在型観光への転換が重要である。宿泊を伴わない観光では大きな経済効果は得られない。地域にあった色々な形態があると思うが、宿泊機能は必要だと思う。従って、「宿泊機能の立地促進」を加えてはどうだろうか。

池田委員長

第１回の検討委員会でもお話したが、那覇空港、港湾を含めた動脈となる道路をどのように繋ぐかが重要である。北部から南城市まで繋ぐ縦の交通軸と、東西のハシゴ道路、また西原まで延長されたモノレールとを一体的に繋ぐことが大切である。

「良好な居住環境とともに、歴史・自然資源と産業・観光振興が調和する土地利用の展開」、島袋副委員長からもありましたように、北部地域も含め、東海岸地域は自然や歴史がとても豊富である。西海岸地域は人工的な自然が多くなっており、東海岸の自然をどう活用するか、より強調する為にも、順番を上げても良いと思う。

「臨空・臨港型産業の拠点形成」だが、このタイトルでは那覇市・浦添市・豊見城市のイメージが強く、東海岸のイメージにズレがあるように思う。

４　意見交換

東海岸サンライズベルト構想（素案）について、意見交換を行った。

（与那原町）照屋委員

「基本的な考え」において「子育てしやすい環境づくり」という文言があるが、高齢者社会の対応の次に、「新たな公共交通の整備」についての記載が必要と考える。交通弱者への対応は重要な取組であり、次に出てくる良好な住環境の形成にも繋がる。

大型 MICE の催事中に大規模災害が発生した場合、来場者や住民の非難が必要となり、交通渋滞や人災が起こる可能性がある。レジリエンスの視点から強靭強化の対策としても、大型 MICE 完成の前に南部東道路を結ぶ、県道糸満与那原線バイパスの整備が急務と考える。

（南城市）瑞慶覧委員

島袋副委員長からご指摘のあった、「構想実現のための展開」の「良好な居住環境とともに歴史・自然資源と産業・観光振興が調和する土地利用の展開」を最初に持ってくるというご意見は良いご指摘だと思う。目指す姿の「住む、働く、遊ぶ」の言葉の並びは非常に良いと感じており、この順番に西海岸との違いが示されているので、そこを考慮してもらえればと思う。

（沖縄市）桑江委員

企業誘致による空白地帯ができることが懸念される。

土地利用の件で、北の中城港湾と、南の大型 MICE といった明確な施設がある。中部の真ん中

にあたる地域においても、企業誘致に繋がるインセンティブ要素がないと、なかなか企業は張り付かないと思う。今後、県の方とは色々とご相談させて頂ければと思う。

（企画部）宮城委員

臨空・臨港の近接性は、東海岸地域との関連が分かりにくくなるというご指摘だったと思う。

本拠点の形成にあたっては、国際物流産業集積地域への対象の拡充も踏まえた、ネーミングにする必要があると考えます。「空港」、「港湾」を入れるかたちで、例えば「空港、港湾に繋がる拠点の形成」など、やはり、空港、港湾というキーワードは残した方が良いと考えている。

委員長のとりまとめ

池田委員長

各委員、特に市町村は、東海岸サンライズベルト構想についてご賛同いただけているものと感じた。各委員より頂いたご意見については、事務局にて検討して頂きたいと思う。

委員長として、各委員の意見がどのように反映されるか見届けたいと思うので、一任頂ければと思うが、宜しいか。

全員

異議なし。

５　その他

本日、委員より頂いたご意見を踏まえ、池田委員長と調整のうえ構想（案）をとりまとめ、３月下旬に玉城知事へ「東海岸サンライズベルト構想（案）」を手交することを連絡した。

６　閉会の挨拶

企画部長より、閉会の挨拶を行った。

７　閉会